

# 「新城小学校の鎌 hands 踊り伝承活動の取組」

## 1 学校名

垂水市立新城小学校

## 2 学年・人数

1年生から6年生（計20人）

## 3 日時・場所

### (1) 練習の日時・場所

令和5年7月7日～11月22日 体育・創意・総合的な学習の時間  
（本校体育館・校庭）

### (2) 発表の日時・場所

令和5年7月29日（土） 新城地区六月灯（鉄道公園）  
令和5年10月1日（日） 新城小・校区合同運動会（本校校庭）  
令和5年11月23日（木） 新城地区文化祭（新城地区公民館）

## 4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

### (1) 名称

鎌 hands 踊り（かまんでおどり）

### (2) 由来

安永8年、桜島が大爆発した。その被害は甚大で、農作物は降灰のため収穫が皆無となり、農民全員が生活苦に悩まされた。当時、新城領主であった末川久備公は、貯蔵米を放出して領民に米を施した。その年の年貢は取り止められ、更に農民の士気を鼓舞するため民芸大会が開催された。

民芸大会は、集落ごとに民芸団を組織して行われたが、そのとき新城大浜集落が踊ったのが「鎌 hands 踊り」であった。村人全員が参加して盛大に開かれ、以来、村の行事として、祝いごとや祭りの折に氏神に奉納されてきた。

### (3) 構成等

揃いの衣裳に鉢巻、色とりどりのタスキに身を固め、凜々しい姿で踊る。カマ、ナタ（ナギナタ）4人1組で前と後ろに位置し、唄声に合わせて、威勢のいい掛け声とともに、カマとナタとをつばぜり合わせながら舞う。つばぜり合いの際、櫂の棒が「カチン」と響く様が勇壮である。

## 5 保存会や地域との連携の具体

「鎌 hands 踊り」は、新城地区公民館に所属する「ふるさと先生」が中心となって指導を行っていたが、近年は指導者不足のため、教職員がビデオ等を参考に踊りを指導し、所作をふるさと先生に指導していただく形をとっている。主に、地域の住民が集う六月灯、校区合同運動会、地区文化祭で踊られ、季節の節目を彩り、地域が一つになる大切な伝承芸能である。地域の大切な伝統芸能を継承するために、児童、保護者、教職員、地域ができることを工夫しながら参画している。

## 6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

先輩から後輩へと伝承する鎌 hands 踊りでは、地域の方々からは所作を中心に指導、また、称賛や励ましをいただき、子供たちの意欲へつながった。学校では踊りの映像を残し、教職員の異動があっても指導できるようにした。また、子供たちは、それぞれでタブレット端末に入れてある動画を見て、個人練習を進めたり、先輩である中学生から練習や運動会に参加してもらいアドバイスをもらったりした。保護者は、本番の着物の着付けを担当し、新しい保護者への着付け指導や、伝承のための着付け説明書も作成した。

児童数が減少しているため、入学したばかりの小学校1年生も鎌 hands 踊りの大切な担い手である。この鎌 hands 踊りを通して地区を一つにするために、地域・保護者・学校ができることを考え、伝統を守っている。

## 7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



映像を見ながら  
中学生との練習風景



10月1日（日）  
新城小・校区合同運動会



11月23日（木）  
新城地区文化祭で披露

## 8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

### 【児童生徒】

- ・ これまで教わったことを、下級生に上手に教えることができた（6年）。
- ・ 難しかったけど、本番では元気に声を出したり、踊ったりできて嬉しかった（1年）。
- ・ 人数は減っているけど、続けてほしい（中学生）。

### 【教職員】

伝統芸能を継承していくことの難しさを感じているが、映像等で残したり、地域や保護者と連携をとったりしながら、大切な踊りと心を受け継いでいきたい。

### 【地域の方から】

久しぶりの六月灯や文化祭に、子供たちの勇壮な姿が、地域に元気とパワーを与えてくれ、盛り上がりました。

### 【保護者】

上学年は堂々と、1年生も一生懸命踊っている姿がかわいくて、感動しました。